

# MONEX Retail Investor Survey



MONEX 個人投資家サーベイ 2012 年 1 月調査

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2012 年 1 月 20 日～1 月 23 日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009 年 10 月に第 1 回サーベイを行い、月次で公表しております。

(※2011 年 3 月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施していません。)

また、2011 年 6 月より、グループ企業であるトレードステーション証券（米国）、マネックス BOOM 証券（香港）の個人投資家の皆様にも、四半期ごとに同様のアンケートを行い、調査結果を「MONEX グローバル投資家サーベイ」として提供しております。

## ■ 調査結果の要約

### (1) 日本株、米国株、中国株DIともに改善、米国株DIは前月比+15ポイントと著しく上昇

【日本株 DI】(2011年12月)24ポイント → (2012年1月)29ポイント (前月比 +5ポイント)

【米国株 DI】(2011年12月)28ポイント → (2012年1月)43ポイント (前月比+15ポイント)

【中国株 DI】(2011年12月)-20ポイント → (2012年1月)-18ポイント (前月比+2ポイント)

日本株、米国株、中国株 DI (※) とともに前回ポイントより改善。特に米国株 DI は前月から+15ポイントの上昇幅となり、ダウ平均が 12,700 ドルを超えて昨年 7 月以来の高値水準に戻ったことを反映しての結果と思われる。日本株も 5 ポイント上昇。調査時の日経平均は 8,766 円(1月20日終値)と昨年12月7日以来となる 8,700 円台を回復した。(※DI:「上昇する」と回答した%から「下落する」と回答した%を引いたポイント)

### (2) 日経平均株価の上値目処について 50.7%が「9,000円前後」と回答

調査開始日(1月20日)の終値 8,766 円を踏まえ、「短期的な日経平均株価の上値目処」を質問したところ「9,000円前後」とする方が 50.7%と半数を超えた。「9,500円前後(23.5%)」、「10,000円以上(4.8%)」と合わせると約 8 割の個人投資家が一段高を予想しており、戻りもここまでとする「8,800円前後」の 21%を大きく上回る結果となった。

### (3) 業種別見通しは「グローバル景気敏感」系の業種が上昇

通信、小売といった「内需ディフェンシブ」系の業種が順位を下げる一方で、ハイテク、石油、海運など「グローバル景気敏感」系の業種が順位を上げた。欧州不安の後退から欧米市場で金融株が買い戻されていることもあって、銀行も順位をひとつ上げた。

### (4) 米ドル/円レートについて円高懸念は薄らぎ、円安期待が増加傾向

先月調査に引き続き「変わらないと思う」との回答が 4 割超と最多を占め、最近の膠着相場を反映した結果となった。但し、「円高になる」との回答が先月より 6 ポイント減った一方で、「円安になる」との回答は 5 ポイント増えていることから、全体としては膠着相場が続くものの、基調としては円安方向を見ている。個人投資家の相場観としては、円高懸念は薄らぎ、むしろ円安期待がじわりと増えつつあるようだ。

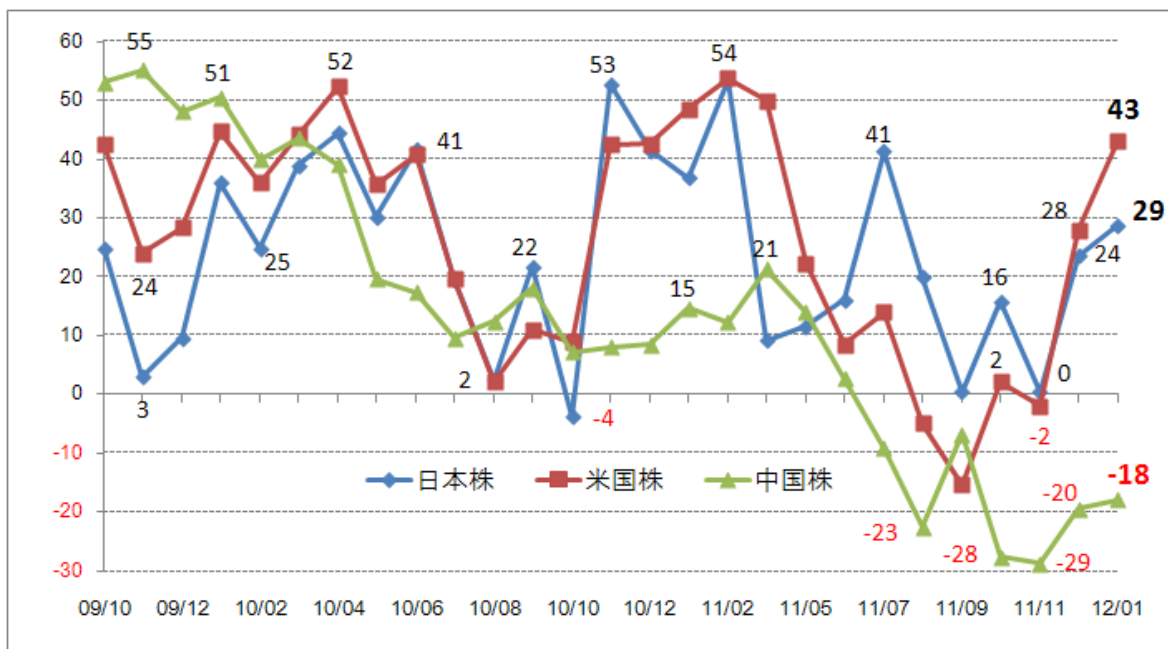
### (5) 日本株取引についての投資意欲DIが改善

今後 3 ヶ月の投資意欲の DI (※) は 24 と前月から 9 ポイント改善し、2011 年 7 月以来の高さとなった。(※DI: 売買頻度を増やしたいと回答した%から売買頻度を減らしたいと回答した%を引いたポイント)

## ■ 調査結果

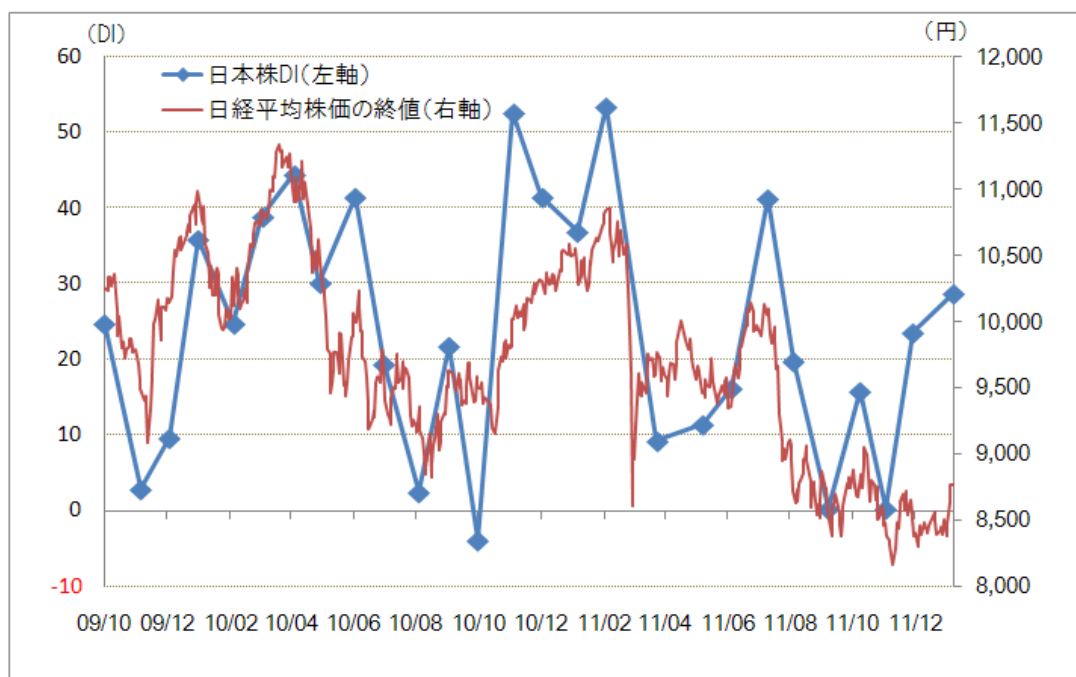
### 1 株式市場を取り巻く環境について

(1) 今後3ヶ月程度の株価予想（日本株、米国株、中国株のDI推移）グラフ①



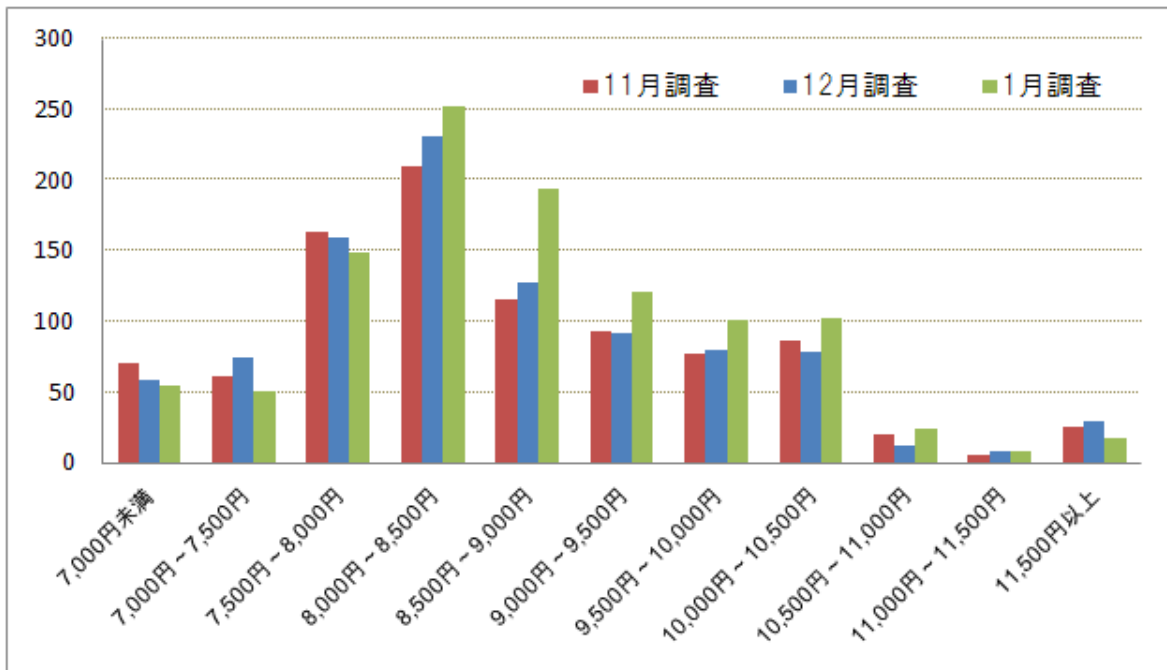
日本株、米国株、中国株 DI (※) とともに前回ポイントより改善。特に米国株 DI は前月から+15ポイントの上昇幅となり、ダウ平均が 12,700 ドルを超えて昨年 7 月以来の高水準に戻ったことを反映しての結果と思われる。日本株も 5 ポイント上昇。調査時の日経平均は 8,766 円(1 月 20 日終値)と昨年 12 月 7 日以来となる 8,700 円台を回復した。(※DI:「上昇する」と回答した%から「下落する」と回答した%を引いたポイント)

日経平均株価（終値）と日本株 DI の推移 グラフ②



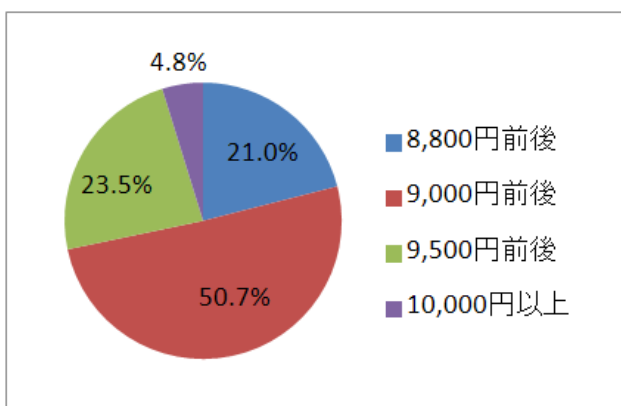
(2) 日本株を買いたい水準

日経平均株価がどの水準であれば、日本株を買いたいと思うか グラフ③



日本株を買いたい水準を8,000円～8,500円とする回答が伸び、日経平均の上昇と共に、8,500円～9,000円とする回答も前月と比べ上昇した。

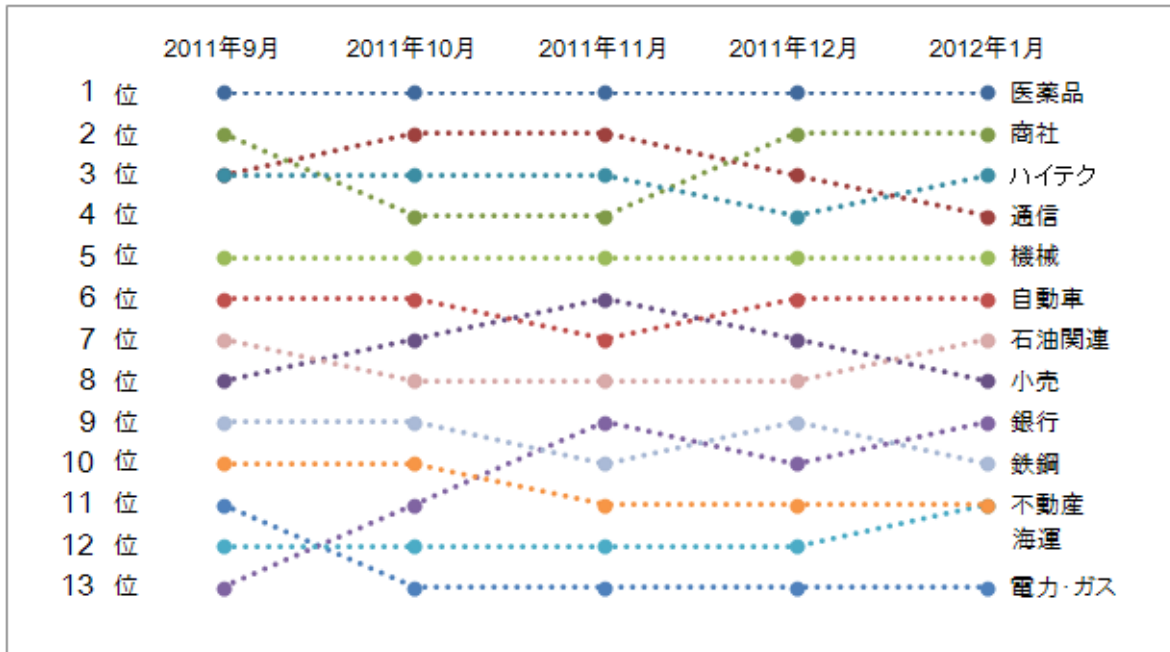
日本株に上昇の兆しが見えますが、短期的にいくら位まで戻るとお考えですか？ グラフ④



「9,000円前後」とする方が50.7%と半数を超えた。「9,500円前後（23.5%）」、「10,000円以上（4.8%）」と合わせると約8割の個人投資家が一段高を予想しており、戻りもここまでとする「8,800円前後」の21%を大きく上回る結果となった。

(3) 日本市場の各業種に対する今後3ヶ月程度の見通し

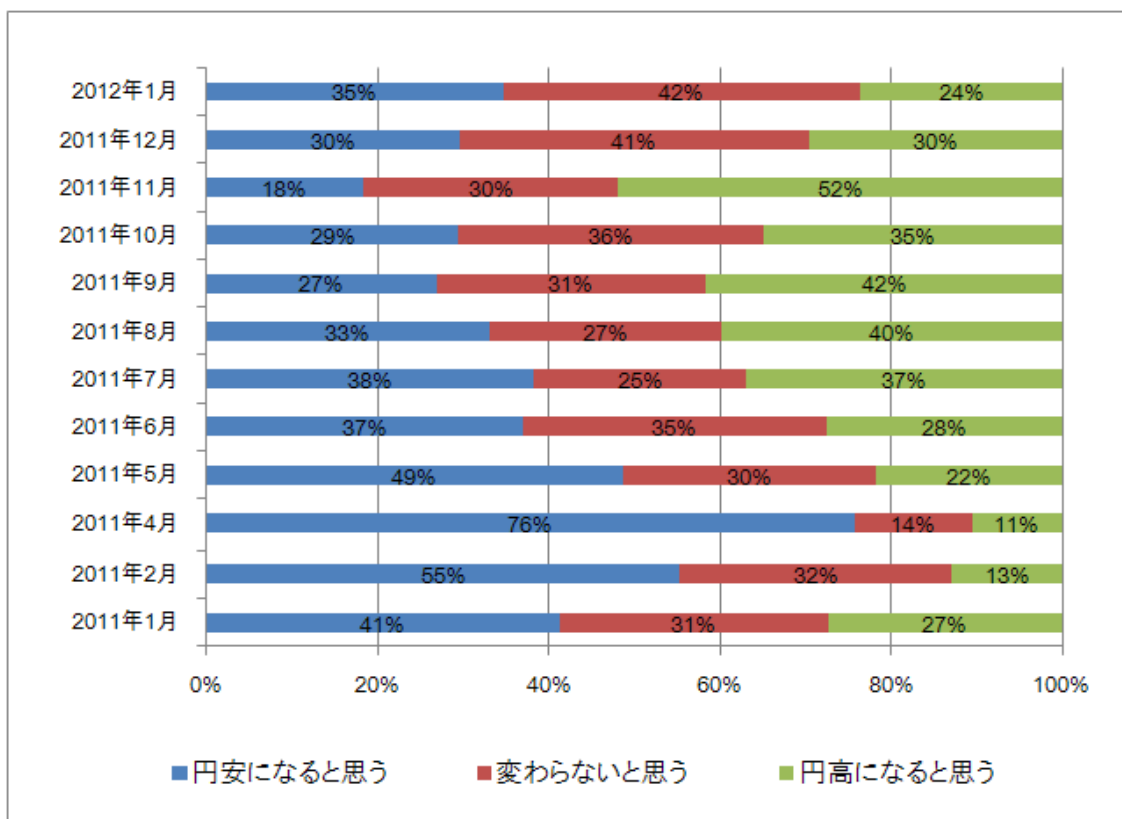
日本投資家の「魅力的であると思う業種」ランキング グラフ⑤



引き続き医薬品が1位、商社は2位をキープ。通信、小売といった「内需ディフェンシブ」系の業種が順位を下げると一方で、ハイテク、石油、海運など「グローバル景気敏感」系の業種が順位を上げた。欧州不安の後退から欧米市場で金融株が買い戻されていることもあって、銀行も順位をひとつ上げた。

2 為替市場について

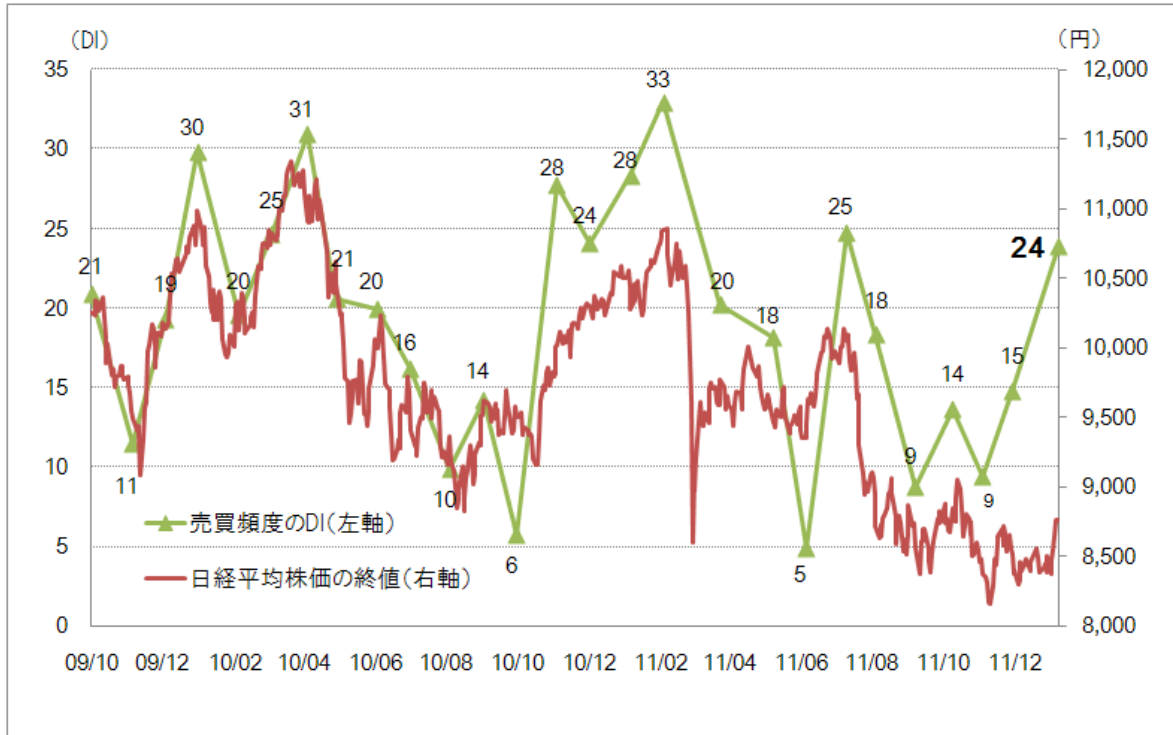
今後の3ヶ月程度の米ドル/円相場予想 グラフ⑥



先月調査に引き続き「変わらないと思う」との回答が4割超と最多を占め、最近の膠着相場を反映した結果となった。但し、「円高になる」との回答が先月より6ポイント減った一方で、「円安になる」との回答は5ポイント増えていることから、全体としては膠着相場が続くものの、基調としては円安方向を見ている。個人投資家の相場観としては、円高懸念は薄らぎ、むしろ円安期待がじわりと増えつつあるようだ。

3 お客様の日本株取引について

今後3ヶ月の投資意欲について グラフ⑦



投資意欲のDI (※) は24と前月から9ポイント改善し、2011年7月以来の高さとなった。

(※DI: 売買頻度を増やしたいと回答した%から売買頻度を減らしたいと回答した%を引いたポイント)

## ■ 総括 (マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)

今月の個人投資家サーベイでは株の見通しに関して日本、米国、中国ともに DI が改善しました (グラフ①)。特に著しい上昇となったのが米国株でした。これはダウ平均が 12,700 ドルを超えて昨年 7 月以来の高値水準に戻ったことを反映しての結果と思われます。日本株もこうした海外投資環境の改善を受けて、ようやく出遅れ修正の兆しが見えてきました。

日経平均は昨年 10 月末を高値として上値が切り下がる一方で、下値の方も 11 月下旬を底値に切り上げながら推移、いわゆる「三角持ち合い」を形成していました。それは相場が相当程度煮詰まっていることを示す形で、早晩上か下に放れるものと予想されていましたが、テクニカル面での上値抵抗ラインを次々と突破して上に抜けてきたことで、目先日本株の上昇期待が高まっています。

それを反映して日本株の DI は 5 ポイント上昇し昨年 7 月以来の高水準となりました (グラフ⑦)。投資意欲も高まり、売買頻度を増やしたいと回答した%から売買頻度を減らしたいと回答した%を引いた投資意欲を問う DI は 9 ポイントも改善し、こちらも昨年夏以来の高さとなりました。

今月は、日本株に上昇の兆しが見え始めたことから、日経平均の目先の上値目処を質問項目に加えました。短期的にいくら位まで戻ると思うか?との問いに対して、「9,000 円前後」との回答が半数を超えました (グラフ④)。「9,500 円前後」、「10,000 円以上」と合わせると約 8 割の個人投資家が一段高を予想しており、戻りもここまでとする「8,800 円前後」の 21%を大きく上回る結果となりました。

日本株の業種別見通しに関しても、通信、小売といった「内需ディフェンシブ」系の業種が順位を下げる一方で、ハイテク、石油、海運など「グローバル景気敏感」系の業種が順位を上げました。欧州不安の後退から欧米市場で金融株が買い戻されていることもあって、銀行も順位をひとつ上げました (グラフ⑤)。

最後に為替市場の見通しですが、先月調査に引き続き「変わらないと思う」との回答が 4 割超と最多を占め、最近の膠着相場を反映した結果となっています (グラフ⑥)。但し、「円高になる」との回答が先月より 6 ポイント減った一方で、「円安になる」との回答は 5 ポイント増えていることから、全体としては膠着相場が続くものの、基調としては円安方向を見ているということです。個人投資家の相場観としては、円高懸念は薄らぎ、むしろ円安期待がじわりと増えつつあるようです。

今回も皆様のご協力により有益な調査結果を得ることができました。皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

(マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)



## ■ 調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家  
 回答数： 1,174 件  
 調査期間： 2012年1月20日～1月23日

### 【性別】

男性	女性
84.8%	15.2%

### 【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.3%	4.3%	22.3%	30.2%	19.9%	17.2%	5.7%

### 【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
34.0%	20.2%	19.3%	18.4%	6.6%	1.6%

### 【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
4.5%	15.1%	27.3%	27.7%	25.5%

### 【株式投資のご経験】

1年未満	2年～5年	5年～10年	10年以上
8.9%	23.6%	25.0%	42.4%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

## マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号  
 加入協会：日本証券業協会、（社）金融先物取引業協会